

「さわって覚える石の生い立ちのコーナー」 大人にも役立つ子供向け展示

吉川 敏之¹⁾

「さわって覚える石の生い立ちのコーナー」は、地質情報展の体験コーナーとして今回で2年目を迎える一般展示です。石にはいろいろな種類があり、それぞれ異なった生い立ちがあることを理解してもらおうという主旨で始まりました。小学生からわかるような展示内容を目指し、パネルの解説類はイラストを多用した構成になっています。ただ、1年目の展示では、大人の方々の反応が大きかったのも事実です。石に触れて楽しめるのは何も子供ばかりではありません。既に石の名前や成因を知識として知っている大人の方でも、あらためて手にとってみることで理解が深まることもあります。このため、展示ではさまざまな種類の石を用意しました。

1年目の昨年は、展示用の石は研究者が主に研究用に収集した岩石サンプルの中から、見た目が興味をひきそうなもの、さわってわかりやすいもの



写真1 「さわって覚える石の生い立ちのコーナー」展示風景。体験コーナーとして、軽い石、重い石、珍しい石などいろいろな石を手にとってみるができます。

を中心に集めました。しかし、研究用に石を採取する場合、なるべく新鮮な箇所を採るべく努力はし

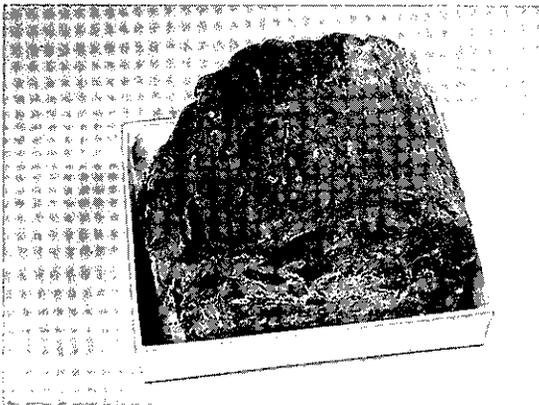


写真2 石川県輪島市産の珪化木。ご当地ものとして能登の火砕流堆積物から産した珪化木を展示しました。やや変形を受けているものの、丸太の形を保持しており、年輪も識別できます。

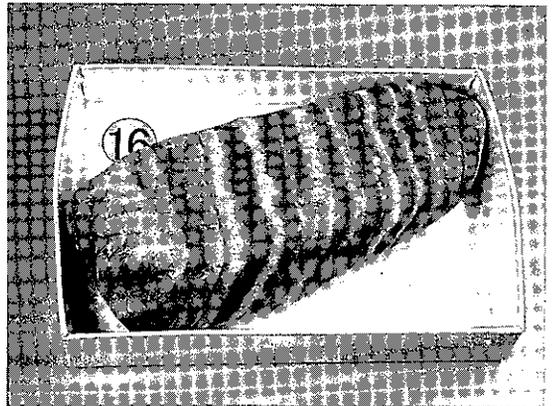


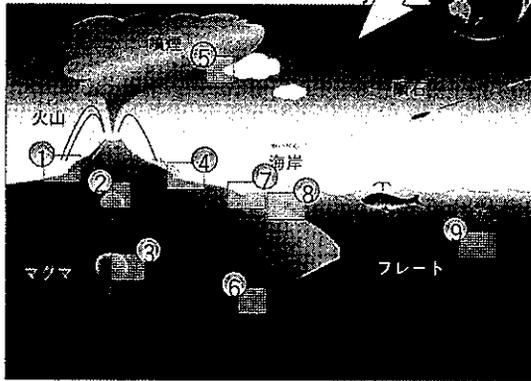
写真3 砂岩泥岩互層。模様から成因を想像しやすいので好評でした。この石は、展示のために海岸で洗われていた転石を採ってきたものです。

1) 産総研 地球科学情報研究部門

キーワード: 地質情報展, 石, 展示, イラスト

さわって覚える石の生い立ちのコーナー
 ～見て持って実感してみよう石のいろいろ～

石は地球上のさまざまな場所で作られています。



石のできかたは、おもに次の3通りです。

1. マグマからかたまることができる …… 火成岩
2. 蒸やちからをうけてできる …… 変成岩
3. ふりつもったものがかたまることができる …… 堆積岩

これらは慣れれば見わけることができます。

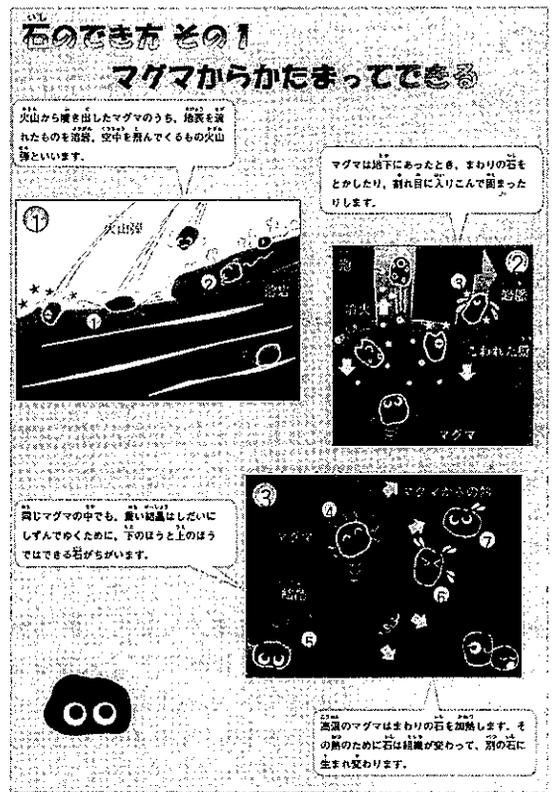
それぞれどんな石になるのか、手にとって見てみましょう。

第1図 1枚目の説明パネル。地球上のどんな場所で石ができるかをイラストを主体に示しました。番号のついた四角部分を更に詳しいイラストで説明しました。

でも、見た目の良さを気にすることはほとんどありません。特に模様の特徴のある石の場合、多少風化した方が模様がよりわかりやすくきれいに見える場合があります。これらは研究用のように崖から直接採取するよりも、河原や海岸で洗われた石を探した方が、展示用には向いています。そこで、今年の展示では、少ないながら展示を目的とした採集も事前に行いました。

こうして並べられた17個の石ですが、石の種類がさまざまなら、ひとの興味もさまざまでした。共通して人気のあったのは昨年同様、黒曜石、軽石、化石などですが、海岸で波に磨かれた転石(砂岩泥岩互層の一部)や、ご当地ものの珪化木(能登半島産)も関心をひいたようです。

一方で、説明パネルもある程度大人の方の目にも耐えられるように修正しました。特に一般に知られている火成岩・変成岩・堆積岩という岩石の区



第2図 2枚目の説明パネル。主に火成岩の説明。イラストと展示の石とは番号で対応しています。

分がわかるように、パネル全体の背景色を変えることで分類しました。しかし、実際の展示会場では、昨年より一段とカラフルに仕上げたにも関わらず、パネルの方はそれほど注目されなかったようです。展示ブースの前には説明員がいたこともあり、あえて説明を読むよりも、直接話をした方が理解しやすいこともあったでしょう。でも、それ以上に実物の石のもつ存在感やおもしろさに、多くの方が引きつけられたのではないかと思います。

地質学の主役は岩石です。46億年にわたる地球の歴史、すなわち古代生物の繁栄・絶滅や激しい火成活動や劇的な環境変化を知り得たのも、みな石の研究からでした。最初に石があり、あとからその説明や解釈が生まれてきたわけです。まず、石に対する好奇心をもつこと、それが地質学への第一歩と言えるでしょう。今回、石にさわってくれた何人もの方の中で、ひとりでも石への好奇心が芽

